

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年10月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1174200764
法人名	悠馬エンタープライズ有限会社
事業所名	グループホーム らんらん倶楽部
所在地	〒367-0243 埼玉県児玉郡神川町熊野堂2578 (電話) 0495-74-2323
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年10月15日

【情報提供票より】(平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人	
職員数	16 人	常勤	7人, 非常勤	9 人,	常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物構造	木造耐火 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000	円	その他の経費(月額)	15,000	円
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)		有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり 1,000 円				

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	10 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富永クリニック、慈光会病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園住宅地に位置し、建物の外観は明るいレンガづくりで周囲の雰囲気と調和している。室内は天井が高く、自然光を取り入れ、木材を使った柔らかなさと清潔感にあふれた明るい雰囲気である。居室は各々の出入り口が他室から見えないように作られており、プライバシーが保たれている。居間からはウッドデッキを経て広い庭に自由に出入りできるようになっており、開放感にあふれている。利用者は職員と共に庭の野菜畑で作物を作る楽しみなどを通して四季を味わうことができている。また広い庭を近隣の方々や家族と、交流の場としても活用している。職員は、利用者を自分の家族のように接している。職員と利用者とのやりとりも自然であり、一人ひとりの生活を尊重され落ち着いて生活している。また、医療依存度の高い利用者に対しても医師、看護師のサポート体制ができているため、重度化に対しても職員が自然に受け止めていく姿勢を育てている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、感染症の流行の時期でもあり、感染予防について取り組む提案があった。課題として職員カンファレンスにて勉強会を行い、保健センター等の協力を得て、現在はペーパータオルの導入や手洗い励行、調理時の手順マニュアルなどを作成し、実施している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 特に取り組みたい重点項目を挙げていないのは、全ての項目に優劣なく取り組みたいと考えているからである。前年の熱心な感染症防止策への取り組み同様に、全ての項目にできる限り取り組んでいきたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 参加メンバーである地域包括支援センターからの要請で6ヵ月毎に開催されている。法人代表、地域包括支援センター職員、家族代表、地域代表で構成され、会議内容は半年間の活動報告が主であり、施設運営上の活発な検討会議には至っていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 家族からの意見等は、面会時などに直接家族から情報、意見を取り入れており、検討が必要な問題については定時カンファレンス(毎月)、サービス担当者会議または運営推進会議で検討しており、その結果は毎月発行するおたよりで報告され、家族に届けられている。また、緊急度に応じ電話対応、面会時などで対応をしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 花見、クリスマス会などの施設の行事には地域および近隣の施設等の人々を招待している。利用者は職員と共に地域清掃活動にも住民として参加し、お互いに自然な挨拶が行われており、地域に溶け込むよう努めている。また、地域の学校の職業体験学習の場として、毎年生徒を受け入れている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

☐ 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、利用者は自分たちの祖父母、両親と一緒に生活することを理念として掲げ、利用者一人ひとりの生活を尊重し、地域での暮らしを継続できるよう支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎朝の朝礼で唱和している。朝礼担当者は当番制であり、当番は一任されたスピーチを行う。理念の実践に向けての取り組みに関するスピーチもあり、職員が自らの意見を発表する機会にもなっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設の行事には家族の他、地域の自治会や近隣のデイサービスの利用者なども招待している。広い庭を活用し、バーベキュー大会なども盛大に行われている。地域の道路清掃活動や祭りなどに利用者は職員と共に参加している。また地域の小中学校の職場体験学習の場としての役割も果たしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は定期カンファレンス等で検討され、改善に向けて取り組んでいる。前年の課題であった感染防止に対する取り組みは保健センターとの勉強会や手順マニュアル作成等の取り組みとして実践した。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は地域包括支援センター職員の都合を考慮し、年2回の開催としている。議題は報告事項及び行事についての検討が主となっている。		運営推進会議の主旨からも、地域包括支援センターの出席の有無に関わらず、2ヶ月毎の開催が望まれる。短期間で開催することで報告だけでなく、解決すべき課題の検討等きめ細やかな意見交換の場とすることが期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への担当町職員の出席はないが、月3回程度定期的に町役場に出向き、積極的に情報の交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	必要度、緊急性に応じ利用者の状況について電話連絡、手紙、面会時において報告している。また、毎月便りを作り、行事案内やホームへ寄せられた課題への回答も合わせて家族へ郵送している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時等で、随時、職員が直接意見や、苦情を受け付けている。入所時の説明で、苦情・相談の受付方法について説明している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同一法人で5つのホームを運営しており、職員の育成の目的で異動がある。利用者や家族には事前に説明している。現在介護職は人材確保が困難な状況であり、退職者を出さない努力を待遇改善で行う他、日々の勤務姿勢から問題を早期に発見するよう、施設長、管理者が常に相談を受け付けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ヘルパー研修や認知症ケア実務者研修等を受講する機会を設けている。また介護福祉士等の資格取得の支援を行っている。日々の学習の機会として、定時カンファレンス時にテーマ毎の勉強会を開催している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員の会を通じて交流を得た地域のホームとの相互訪問や情報交換をする機会がある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居を希望する利用者や家族が、ホームの運営について納得し、馴染めるようになるまで、何度でも見学や問い合わせに答えている。希望者には日中の滞在も可能である。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の暮らしの流れの中で、利用者と職員は、共同で家事作業を行っている。若い職員は利用者から暮らしの知恵や工夫を学ぶ機会が多い。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居利用時のアセスメントや日常生活、介護を実践していく中で、個々のニーズを把握し、意向に沿う生活が実現するようにカンファレンス等で検討している。家族から情報を得ることもある。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族から要望や意見を定期的に取り入れ、職員間でその思いを共有している。カンファレンスやサービス担当者会議で本人、家族の要望を尊重し介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に説明している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に介護計画の見直しを行っている。また、利用者の状態変化等で計画変更が必要となったときは、速やかに検討し、計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の身体面、精神面、経済状況、家族状況等を踏まえ、個々に合わせた対応、援助を行っている。また、医療との連携も重視し、他のホームでは入居を断られたケースでも多方面からの関わりにより症状が改善し、ホームから自宅へ戻れたケースも経験している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の担当医師が月2回往診し、健康管理、服薬管理、処置等を行っている。医療情報は主治医、家族、ホームで共有できるように配慮している。利用者のうち2名を除き、協力医療機関の医師が主治医となっている。		本人、家族が希望する医療機関・医師に受診できるよう支援することを期待する。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	特に重度化や終末期における対応について明文化はしていない。法人内の終末期の介護の経験があるホームから終末期の介護方法等について学び、終末期の介護も既に2回行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職後の新任研修においてプライバシー保護や個人情報の取り扱いについての研修を徹底している。個室の様子も直接覗かれないように配慮されたつくりになっている。職員の利用者への言葉かけも自然で、家庭的な温かみのある対応である。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の暮らし方、ペースに合わせて自然な関わりで援助している。テラスから庭への出入りも自由であり、開放的な居間で過ごしたり、自室で手芸を楽しむなど思い通りの過ごし方をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やおやつ作りなど、職員と共にやっている。個々の嗜好を把握し、好みの物をできる限り取り入れている。希望があれば外食の機会も用意している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴日を決めているが、入浴の時間帯は個々の希望により日中だけでなく就寝前の入浴も可能である。また浴室は2、3人で楽しみながら入浴できるものと、1人で利用できるものと2タイプ用意され、それぞれの希望に沿って援助されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人、家族からの情報からその人の趣味や生きがいを理解し、尊重している。またホームの暮らしの中にその人の役割を持っていただき、張りや喜びのある生活を支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩、ドライブなど、戸外に出かけるようにしている。希望に応じ買い物にも出かけている。また、年2回春秋に日帰り旅行も計画し、普段行けない場所への外出も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のみ施錠している。玄関から出ると公道となり危険が伴うため玄関の施錠は安全のためやむをえないとしている。施設内、自室、テラスから庭へは自由に行き来できるようになっており開放感を得られるよう工夫している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。また救命講習会を職員が受けるよう推奨し支援している。ホームも自治会員として地域の避難場所、方法を周知し、避難時の地域との協力体制も作り上げている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>現在栄養士は在籍していないため、栄養士が在籍していた当時の献立を活用している。また保健センター等の栄養講習会に参加した職員が、カンファレンス等で他の職員全員に情報の共有をしている。一日の摂取量、栄養バランス、水分量を毎日記録し個々の状態に応じ特別に対応するなどの援助をしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は天井が高く、採光も工夫され、快適な空間を作り上げている。室内にはところどころにソファが置かれ、談話をしたり、ゆったりくつろげる場所もある。和室にはコタツが置かれ昼寝をしている利用者も見られた。居間や廊下の壁面は季節の飾りつけがされ温かみのある雰囲気に作られている。また浴室は窓が大きく明るく清潔感にあふれている。全体的に調和の取れた快適な空間となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には自宅で愛用していた家具や飾り物などを持ち込んでいる。家族の写真、愛用していた人形、趣味の楽器、絵などを自室に飾り、家庭の雰囲気に近い環境としている。またベッドが苦手な方や転落の恐れのある利用者には和布団で休んでいただいている。</p>		